

出生前検査の諸問題：まとめスライド

産科側から

- ◆ リプロダクティブヘルス・ライツの観点から、出生前検査は必要。
- ◆ 高齢妊娠が増え、患者の出生前検査ニーズが以前より高く、NIPTの出現により非侵襲的により早い週数で可能となった。
- ◆ NIPT認定施設では検査前後に、十分な時間を割き、カウンセリングを夫婦に行っている。

小児科側から

- ◆ ダウン症児本人、その家族とも充実した人生を歩んでいる事実を知って欲しい。保険や社会資源も準備されている。
- ◆ 多くの方は、健常な子を望むが、中絶してまで健常でない子を排除しようと考えていない。
- ◆ 排除するのではなく、障害がある人も幸せに生きることのできる社会がよい。

**いずれも、目の前の患者さんと
真摯に向き合った結果である**

非認定施設が、営利目的に行うNIPTは問題が多い。
しかし、アクセスの良さなどの利便性のため患者が希望している現実がある。



**妊婦にとってアクセスしやすい、かかりつけ医で検査が可能となること
小児科的な視点を検査前のカウンセリングに含めること
医会として、会員に教育・研修できるようにしていくこと**